

特集：医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育

看護過程での知識理解のための e ラーニング活用

辻 慶子*, 小松川 浩**

Experimental Study of Web-Based Education for Knowledge Understanding in Nursing Process

Keiko Tsuji*, Hiroshi KOMATSUGAWA**

1. はじめに

看護過程の展開は、看護学の学士課程の教育内容のコアを構成する重要な要素の一つの『看護ケア基盤形成の方法』である。看護過程の展開は、この基盤形成の方法の一つとして、情報収集・アセスメント・全体像の把握・問題の明確化・計画立案・実践および評価の6段階の過程を通じて看護にかかわる問題解決の手続きを学ぶための科目と位置づけられる。看護基礎教育課程に沿って概観すると、1年次系の科目を通じて看護に関する基本的な知識理解を図り、次いで2年次実施の看護過程を通じて知識活用の方法を修得し、3・4年次に看護専門教育や看護実習を通じて実践的な知識活用や技能修得に努める流れとなる。上記のように、看護に関する知識理解と看護実践に向けた知識活用に関する学びをつなぐ位置づけにある看護過程では、当然のことながら双方に関連した学習の時間も多く必要となる。例えば、看護現場体験のない初学者にとっては、実際の看護現場のイメージ化を図ることが難しいなかで、初めて聞く言葉（知識）に触れる機会も多い。このため、それまでの基礎教育で学んだ知識や看護過程で触れる知識を着実に定着しながら、看護現場を想定した知識活用のトレーニングを行う必要がある。授業外での自己学習（予習・復習）を含めた学習時間の確保が重要となる。一方、2年次実施の看護系科目では、一般的に自己学習時間が低減する傾向の報告⁽¹⁾もなされており、看護過程における学習時間確

保に向けた教育方法の工夫・改善が必要とされている。

本研究は、看護過程の展開における自己学習での学習時間の確保について、eラーニングの活用が有用と考え、看護過程の展開6段階に沿った概念や手順を理解するための予習および復習用のeラーニング教材の整備を図った。そして、授業実践を通じて、取り組み状況と定期試験および課題学習の成果との相関を調べ、eラーニング活用の学習効果を含む有用性の検討を行った。

2. 研究の位置づけ

予習・復習の学習効果については、初等中等教育では、教科系の科目を中心に学校教育と家庭教育の連関性の中で研究が行われている⁽²⁾。また、高等教育での自己学習の重要性についても、同様の指摘がなされている⁽³⁾。特に単位制を取る大学教育では、1単位は予習・復習を含めた時間数で設定されており、授業における予習・復習は必須条件であり、昨今の中央教育審議会の答申でも単位の実質化の議論がなされている⁽⁴⁾。こうしたなか、学習時間をある程度定量的に把握できるeラーニング活用が注目されており、その効果検証に関する報告事例も増えてきた⁽³⁾⁽⁵⁾。本研究では、こうした単位の実質化を踏まえ、看護過程におけるeラーニング活用を通じた自己学習に関する効果検証を報告するものである。なお、看護過程におけるeラーニング活用という点では、主に知識活用に関する研究が中心的に進められている。藤本ら⁽⁶⁾は基礎看

* 北海道文教大学人間科学部 (Faculty of Human Science, Hokkaido Bunkyo University)

** 千歳科学技術大学総合光科学部 (Faculty of Photonics Science, Chitose Institute of Science and Technology)

受付日：2013年5月6日；再受付日：2013年7月31日；採録日：2013年9月30日